

## トライトンブイ16号機の回収について

独立行政法人海洋研究開発機構(理事長 加藤康宏)は、平成17年3月22日に漂流を確認したトライトンブイ16号機(別紙1、2参照)を、4月2日12時05分に当初設置点(北緯2度、東経130度)から西方約100km(北緯1度55分、東経129度19分)の海域において、「スマトラ沖地震」調査の帰路にあった当機構の海洋調査船「なつしま」により回収しましたのでお知らせします。

### 1.回収したブイの状況(別紙2、3、4)

- (1) 表面ブイ及び水中センサー(流速計、CT(電気伝導度、水温)センサー、CTD(電気伝導度、水温、深度)センサー)付き750mワイヤーロープを回収。
- (2) 表面ブイ下部フレーム(水中)に取り付けているCTセンサー1台及びバラストウェイト(約280kg)が喪失。
- (3) 現在、「なつしま」による回収を終了し、那覇港へ向けて航行中(4月8日到着予定)。

### 2.漂流推定原因

750mワイヤーロープ直下のナイロンロープより下部が外れていたことから、船舶による曳航等のバンダリズム(人為的な観測妨害行為や盗難などの行為)により、係留ロープのうち一番強度の弱いナイロンロープ(20mmφ)が破断したと推定。(別紙4)

なお、750mワイヤーロープ直下のナイロンロープより下部については、アンカー(4トン)により当初設置付近に残置しているものと推定。

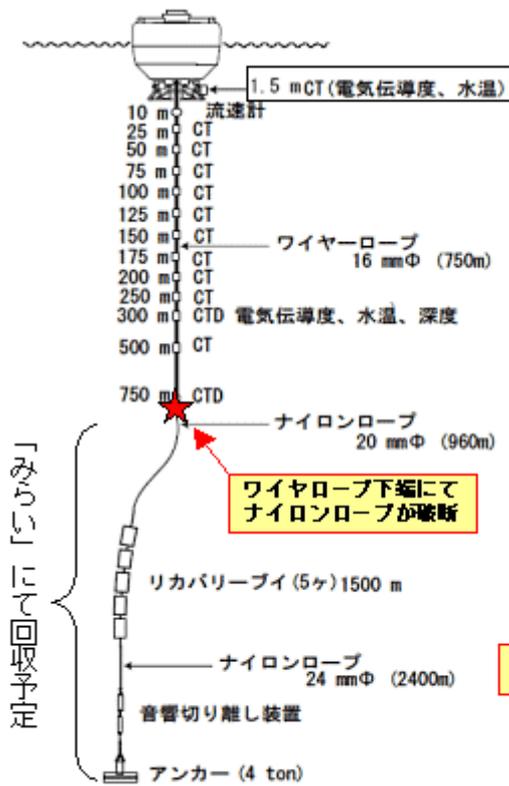
### 3.今後の予定

- (1) 那覇港到着後、海洋研究開発機構むつ研究所へブイ機材を輸送し、詳細な被害調査等を行う。
- (2) 海上保安庁海洋情報部に、他船舶との衝突等航路障害の恐れが無くなった旨を通報した。
- (3) 750mワイヤーロープ直下のナイロンロープより下部(音響切離装置等残置水中部機材)は、海洋地球研究船「みらい」により7月に回収を予定している。

(時間は全て日本時間)

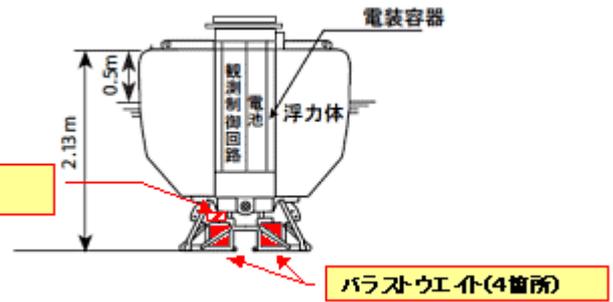
### 問い合わせ先

海洋研究開発機構  
海洋工学センター研究支援部観測ブイ運用グループ 山口、石原  
TEL046-867-9871  
総務部普及・広報課 高橋、五町  
TEL046-867-9066



主要寸法等		計測項目
直径	約2.4m	流速 (10m)
高さ (ブイ浮体部)	約2.1m	塩分、水温 (1.5, 25, 50, 75, 100, 125, 150, 175, 200, 250, 300, 500, 750m)
重量	約2.4tf	
全没時排水量	約5.7tf	
リカバリーブイ重量	約0.3tf (1ヶ)	
寸法	0.6m×0.6m×1.5m (1ヶ)	

2004. 12. 3 BPPT点検時点の表面ブイの状況  
(FRP製デッキカバー、レーダーレフレクタ搭載)



別紙2 トライトンブイシステム

200642 ブイ回収時に亡失を確認



別紙3 回収作業中の16号機



別紙4 回収した750mナイロンロープと破断部